

# 学校法人昭和女子大学

## 2012（平成 24）年度

### 事業計画

少子高齢化の加速、低い経済成長、若者の就職難、地球規模の環境問題、大震災からの復興支援、グローバル化への対応などの深刻な課題を抱え、日本には先行きの不透明感が漂っている。

この困難な時代にあっても、学園は教育の質向上、国際化への対応、部門間連携、社会貢献、財政基盤の整備等に取り組み、着実に成果をあげてきた。

平成 24 年度の事業は、引き続き「学園の『使命』MISSION および『将来構想』VISION」に基づき計画し、教育・研究を充実させて、国際的に高い評価を得る学園を目指すものとする。また、法人経営と教育活動の持続的発展を目標に、創立 100 周年に向けた『中期計画』を策定する。

## 学園全体

### 1 将来計画

#### 1. 中期事業計画の策定

長期計画で示した主要課題と行動指針を見直し、必要な場合は計画に修正を加える。

学園規模の推移をイメージしながら重点課題を抽出し、今後 5 年間の中期事業計画を策定する。

### 2 施設・設備

#### 1. 大学新校舎・新学生寮

2013（平成 25）年度末竣工を目標に、大学の新校舎と新学生寮の建設計画に着手する。

#### 2. 中高部

大学 5 号館 1 階を改装し、教室 3 室と生徒自習室 1 室を設置する。

#### 3. 幼稚部園舎

2014（平成 26）年度末竣工を目標に、新園舎の建設計画に着手する。

#### 4. 環境美化・施設整備

学園内の歩道をインターロッキングブロック舗装に改装する。

大学 1・3 号館のトイレを改修する。

大学の各建物に無線 LAN システムを整備する。

#### 5. 売店設置

人見記念講堂地下に、書籍・文房具等の売店を設置する。

#### 6. 施設稼働率の向上

施設や教室の稼働率を高め、資産を効果的に活用して教育活動を充実させる。

## 2 組織・人事

### 1. 事務組織の見直し

大学のセンター機能を検証し、事務組織の再編成に着手する。新たな組織は事務効率化に加えて教員研究・学生支援体制の充実を目的とし、職員がそれぞれの能力を發揮できる体制を整備する。

### 2. 人事計画

定年退職者は原則不補充の方針を継続するが、事業計画や戦略に必要な採用・異動は積極的に行う。また、2016（平成 28）年度から急増する定年退職者数に対応し、教職員の長期採用計画を立案する。

中高部には、校長によるスムーズな校務運営を支援する役職者を配置する。

### 3. 人件費比率と適正配分

継続して人件費比率の低減に取り組む。

人件費総額を適正に配分できるよう、勤勉手当の評価基準や配分方法を見直す。各部門部署で大きな成果を上げるなど、学園に貢献した教職員をしっかりと評価できる仕組みを整備する。

## 3 学園のグローバル化

### 1. 国際交流の推進

アジアや欧米の大学と協定を締結し、学生の相互交流を推進する。

留学生の受け入れ増加に必要な施設やカリキュラムを検討し、学園のグローバル計画を策定する。

### 2. 昭和ポストプログラム

各部門のポストプログラムを検証し、国際・語学教育を充実させる。

大学の新学部学生が留学する 2014（平成 26）年度に備え、宿泊棟や教室等の改修・増築を検討する。

### 3. 学校間連携の推進

初等部・中高部とブリティッシュ・スクールとの共催イベントを奨励し、児童・生徒間の日常的交流を推進する。

## 4 部門間連携

### 1. 幼保一体施設の検討

幼稚園と保育園を総合する、幼保一体施設の設置と運営方法を検討する。学園でプロジェクトチームを編成し、総合こども園等の調査・研究を行う。こども園化の可能性を検証し、新園舎の設計に反映させる。

### 2. NPO 昭和との連携

NPO 昭和と昭和小学校・昭和幼稚園とが連携し、延長保育・学童保育サービスや親支援プログラムを試行する。

## 5 外部との連携

### 1. 企業・地域との連携

大学と地域・企業との協働プロジェクト、生徒・学生の地域活動を推進し、学園と地

域・企業との連携を深める。

## 2. 卒業生との連携

卒業生や保護者ニーズに応じる講座を提供し、在校生・在学生と卒業生間の交流機会を設け、学園と卒業生との連携を深める。

## 3. 社会へのアピール

学園の存在感とブランド力を高めるため、積極的にマスコミ等に情報を提供する。

# 6 安全・安心な環境

## 1. エデュケーション・コンティニュイティ

緊急時に教育活動を中断させない、または早期に再開できるリスクマネジメント体制を整備し、業務の継続計画を策定する。

## 2. 環境教育

環境に配慮した教育・研究活動を推進し、省資源・省エネルギー・廃棄物の削減に取り組み、環境負荷の低いエコ学園を目指す。

# 7 財務

## 1. 財政基盤の整備

収支の基盤となる入学者数は、目標を確実に達成させて財政の安定化を図る。  
人件費水準の適正化に努めるとともに、経費の効率的支出を徹底して消費収支の均衡をめざす。

## 2. 奨学金制度の充実

現在の奨学金制度を検証し、困窮者への給付型奨学金を充実させて経済状況の悪化に即応する。

# 大学院・大学・短期大学部

## 1 教育

### A 就業力向上支援

#### 1. キャリアデザイン・ポリシー

キャリアデザイン・ポリシーを制定する。各学科はポリシーに基づき、カリキュラムを体系化してキャリア教育を進展させる。

#### 2. キャリアコア科目

全学共通のキャリアコア科目を開講し、全学的にもカリキュラムを体系化してキャリア教育を進める。

#### 3. 学習ポートフォリオ

「DREAM 手帳」を全学生に引き続き配布し、キャリア形成と就業力の向上に役立つよう、クラスアドバイザーなどが指導を行う。

#### 4. 社会人メンター制度

社会人メンター制度を充実させ、目標となるロールモデルと出会うことで、自主的な履修、自発的な活動へと結びつける。

#### 5. キャリア教育プログラム

他大学と連携したキャリア教育プログラム実施を視野に、その可能性を検討する。

### B FD 活動と自己点検・評価

#### 1. FD 活動の推進

FD 推進委員会を中心に新任研修や講演等を実施し、全学的な FD 活動をさらに推進していく。

財団法人大学基準協会の評価基準をもとに、2012（平成 24）年度は学生支援に関する自己点検・評価を実施する。

## 2 学生支援

### A 就職活動の支援

#### 1. 就職活動の支援

雇用環境の悪化に対応し、本学主催の企業セミナーなど企業研究の機会を増やして就職活動を支援する。

#### 2. 個別支援の充実

学生と社会人メンター・キャリアカウンセラーとの面談機会を増やして、学生の個別支援を充実させる。インターンシップの協力企業数をさらに増やす。

### B 基礎学力の向上

#### 1. 基礎学力の向上と初年次教育

基礎教育研究センターを充実させ、基礎学力向上の学習機会を提供する。

初年次教育を推進し、大学生として必要となる基礎力の向上をすすめる。

### C 心身の健康増進

健康デザイン学科、管理栄養学科を中心に、全学的な取り組みとして「輝け☆健康『美』プロジェクト」を推進し、健康増進を図る。こころと身体の健康的な発達に関するイベントや啓発活動を行い、支援体制を充実させる。

#### D 奨学金制度の充実

経済状況の悪化に対応すべく、給付型奨学金のさらなる充実をすすめる。

### 3 社会連携と貢献

#### A 地域連携

##### 1. 学生の地域活動

コミュニティサービスラーニングを推進し、自治体、企業、住民、学生が地域課題に協働で取り組む機会をさらに充実させる。

##### 2. 社会人対象講座

これまで実施してきた社会人女性向け再就職支援講座をリニューアルし、キャリアアップや起業を目指す社会人女性を対象としたキャリアのブラッシュアップ支援プログラムを実施する。

#### B 企業等連携

“輝く私”昭和女子大学ステーションとの協働講座を企画・実施する。

企業や団体等連携して取り組む課題解決型コミュニティサービスラーニングを推進する。  
企業との委託研究、企業と学生とのプロジェクト研究を推進する。

### 4 研究・教育支援

#### A 研究支援体制の構築

##### 1. 研究活動の支援

研究費、各種補助金等における、納品検収体制を再構築する。

助教の研究費支給に関する規定を見直し、研究活動のさらなる支援を検討する。

##### 2. 研究センターの設置

経営・ビジネス全般に関わる調査・研究および学生の教育・研究に助言を行う、広く社会に開かれた研究機関として、新たに「現代ビジネス研究所（仮称）」の設置準備を進める。本研究所は2013（平成25）年度開設予定のグローバルビジネス学部と連携して教育・研究活動を行う。

### 5 国際化の推進

教育支援センター国際協力担当を「国際交流センター（仮称）」に改組し、学長直轄の事務組織として、より活発な学生・教員の国際交流を推進する。

### 6 将来計画

#### A 改組

1. 2013（平成25）年度開設を目指し、新たにグローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科を設置する。併せて短期大学部の募集を停止し、在学生全員が卒業した時点で廃止する。

大学院文学研究科の日本文学、英米文学、言語教育・コミュニケーションの3専攻博士後期課程を統合し、2013（平成25）年度から1専攻に改組する。

適正な定員管理を目指し、2013（平成 25）年度以降の収容定員を調整する。

## **B 教員組織とカリキュラム**

団塊世代教員の大量退職期に備え、全学的な視点での補充計画とのカリキュラムのスリム化による対応を目指す。

## 中学校・高等学校

### 1 グローバル化の推進

#### A ユネスコスクールに登録

国際教育、環境教育、他者理解教育カリキュラムを整備・充実させ、日本ユネスコ委員会にユネスコスクールとして登録してプロジェクトを開始する。

#### B 語学力の向上

##### 1. 英語力の定着

6年生を除く全生徒が英検テストを受検する。学年ごとにチャレンジする級を設定し、全員合格を目標とする。

ボストン・ミッションやイングリッシュ・フェスティバル、ブリティッシュ・スクールとの交流を活用し、より多くの生徒に習得した英語力を試す機会を与える。

##### 2. 外国語授業の開講

大学から講師を招き、6年生の外国語クラスにドイツ・フランスを加えた合計5か国(韓国・中国・スペイン)の授業を開講する。

#### C 選択制研修旅行の導入

国内外でフィールドワークを体験する選択制研修旅行を導入する。4年生を対象に2013(平成25)年度に試行し、翌年度から完全実施するもので、今年度はプログラムを検討し、保護者に説明する。

### 2 教育力の向上

#### A 授業改善

##### 1. FDを推進

「一人ひとりがアクティブな授業」を目標に、全教師が授業改善に取り組む。公開授業や研修会等を実施し、外部研修会にも積極的に参加させる。

##### 2. 学力の把握

外部模試・大学入試センター模試から生徒個人・学校全体の学力を把握し、各教科の授業改善に取り組む。

##### 3. 全人教育プログラムの充実

生徒の成長に合わせて身につけさせる「昭和スタイル」を明確に示し、全ての教師が共有して指導する。

### 3 学習・進路支援

#### A 学習支援

##### 1. 自習室・受験講座の開設

大学5号館1階に自習室を設置し、教師を常駐させて生徒の自主学習を支援する。土曜日の午後には大学受験対策講座を開講する。

##### 2. 一般受験クラス

6年生の希望者を集めて一般受験クラスを設置する。

### 3. 朋友学習会

6年生チューターが下級生の勉強をサポートする朋友学習会を、放課後の生徒活動に位置づけて生徒の相互学習を奨励する。

## 3 仕組みの構築

### A 外部の意見を取り入れる仕組み

日常の授業や活動をボードメンバーに公開し、意見や評価を授業改善に役立てる。

選ばれる中高部となるために、生徒や保護者への聴き取り調査を定期的に行い、学校改善に役立てる。

### B 学校情報を発信する仕組み

ウェブサイトやブログを活用して「いまの学校生活」を紹介し、保護者や入学希望者の関心を高める。



## 小学校・幼稚園

### 1 小学校

#### A FDを推進

教科会活動を充実させて、教師の授業研究と教材開発を奨励する。

十分な授業時数を確保するため、学校行事の再検討をはじめめる。

#### B 学習プログラムの充実

「総合学習」の研究体制と発表方法を再構築し、学習成果の充実をはかる。

ブリティッシュ・スクールとのジョイント・プログラムを充実させる。

大学や大学生と連携した教育活動を検討する。

#### C 保護者連携

専門事業者と連携した校内での放課後学童保育の実施を検討する。

キャンパス内や通学途上における児童の安全確保の仕組みを強化する。

#### D 募集活動

男子入学者の獲得に結びつく、効果的な広報活動を検討する。

### 2 幼稚園

#### A 幼稚園活動の充実

教師に施設見学や研修会参加を奨励し、幼児教育への理解を深める機会を設ける。

幼小一貫教育により、教師相互の理解を深めながら将来の連携方法を検討する。

#### B 保護者ニーズに対応

働く親支援のため、NPO 昭和の協力を得て延長保育を園舎内で試行する。

#### C 保育・教育ニーズの把握

世田谷区の施策や子育てステーションの役割を学び、子育て支援制度や保育ニーズを把握する。

NPO 昭和の専門職員との交流会やこども園に関する学習会を開き、幼保一体制度の知識を習得する。

#### D 将来計画

総合こども園について研究・調査し、幼稚園教育と保育サービスの一体化を検討する。